

発言通告書の要旨(代表質問)

令和7年第1回定例会

質問日	質問順	会派/氏名	件名	要旨
3/6 (木)	1	清風会 浜口恭行	1、市長の政治姿勢	首長・市議ともに残任期1年となり、本市誕生20年目を迎える年となる。 第2次総合計画後期基本計画における4つの重点プロジェクト、また「健康」「教育」「三豊市独自の脱炭素」など、多くの施策や事業の中で、山下市長の総仕上げのこの一年には、何を優先して取り組んでいくのか。 人口減少に対する危機感、地方創生2.0に関連して、山下市長の本市未来に向けた持続可能なまちづくりの政治姿勢と施政方針のキーワードでもある「進歩」とは、むすびにある戦艦大和ノ最期の臼淵磐大尉が士官たちに語った言葉の意味を聞きたい。
			2、みとよでスマイル ～持続と豊かさ～	南海トラフ大地震への備えは最も重要である。緊急防災・減災事業費を活用する予定は。 また住宅の耐震診断と耐震対策、躊躇している市民を促進する具体的策はあるのか。 みとよ市民病院を地域に根差した市民のための病院とするための方向性も聞く。 市役所の玄関口となるJR高瀬駅はどう変わるのか。 公共施設についての集約化・複合化の推進として、公共施設等適正管理推進事業債が拡充されている、利活用するのか。 交通システム事業団「MiLAIS」の目標は、地域公共交通はどうしていくのか。 産学官、特に香川高専や地元企業とのDXやAIの取り組みはどのように考えているのか。 脱炭素経営認定制度とは、「三豊市独自の脱炭素」にはどう取り組んでいるか。
			3、みとよでカナエル ～育ちと学び～	「教育」、「保育、子育て」こども・子育て政策に係る地方財源の確保として、子ども家庭庁予算など「こども未来戦略」に基づく事業のメインは何か。 市町村が地域の公立高校との協定等に基づいて実施する、産業界と連携した地域に必要な人材育成は取り組むのか。また地域子育て支援機関、準備はできているのか。
			4、みとよでハジメル ～創造と可能性～	担い手不足が急速に深刻化するおそれがある中、「デジタル活用推進事業債(仮称)」が創設される。書かない窓口、オンライン申請など、デジタルファースト宣言した本市は今後DX、AIをどう利活用していく予定があるのか。
			5、みとよでツナガル ～集いとにぎわい～	観光基本計画が策定され、瀬戸内芸術祭や大阪・関西万博にどう結び付けるのか。 グリーン・デスティネーションズの認証とは、費用はどうする。 広域観光は重要である、どう動いていくのか。 移住・定住につながる地方への人の流れの創出・拡大の加速のための特別交付税措置が創設されたが、二地域居住の創設など、どう活用していくのか。
			6、予算の概要(財政状況)	限られた財源の中、大型建設事業に伴い過去最大の群を抜く一般会計予算規模となった。今後将来の大型建設事業はどうしていくのか。 経常収支比率は前年度から0.2%減の98.2%であり、未だ県内一悪い数値である。 投資や新規事業など自由に使えるお金がない中、経常経費充当一般財源等は将来を見据えて、どうきりつめ 緊縮していく予定があるのか。 特に、国の令和7年度の地方財政対策の概要、特に地方創生交付金についても、本市ではどのような予算措置がされ、どう利活用する予定があるのか。
			7、社会的孤独・孤立問題	独り暮らしの高齢者が増える一方で、自治体のできることは。 居場所・つながりをお膳立てする時代、どう取り組んでいくのか。 ウェルビーイングゆたかさを実感するために、できることは。
			8、地域の現状、実情把握は	原油高物価高対策に苦しみ、現状市民がゆたかさを実感できていない状況に、人口減少、少子高齢化、空き家の増加や所有者不明土地、耕作放棄地問題など地域の把握、多くの課題は認識できているのか、持続可能な「住み続けられる三豊のまちづくり」のための対策はどうしていくのか。

発言通告書の要旨(代表質問)

令和7年第1回定例会

質問日	質問順	会派/氏名	件名	要旨
3/6 (木)	1	清風会 三谷正史	1、みとよでスマイル 持続と豊かさ	南海トラフ地震に備えた自主防災組織の現状と組織率について 高齢化社会の中、高齢者介護の現状と介護従事者の確保について 公共施設の再配置の進捗状況と今後の計画について 三豊市の基幹産業である農業の持続性について
			2、みとよでツナガル 集いとにぎわい	大切にすべき価値・風景を守る基盤を築き、持続可能性の高い好循環をつくることが、観光の目指すべき姿であると、施政方針で述べているが、文化財保護をもう少し推進し、観光と結びつけて、三豊市をアピールできないか。文化財保護等に森林環境税の活用はできないか。
			3、みとよでハジメル 創造と可能性	三観広域行政組合の在り方について。地方自治体の基幹業務システムの統一標準化の整備が進み、行政の効率化が進んでいるが、事務事業の棚卸しを機に、まだまだ、広域行政組合に移行できるような業務もあるのではないかと。行政のスリム化を目指し、主に国、県からの予算で賄われているような分野は三観広域行政組合のような組織に移管するようなことを考えるべき時ではないか。
	2	自民創生会 石井勢三	1、事務事業の棚卸しについて	令和6年度施政方針において、市長は6年度に年々膨れ続ける歳出を抜本的に見直し、より効果的で効率的に市民の皆様にとって必要な事業が実施できるようにするために、「事務事業の棚卸し」に取り組むと述べられている。しかし、その棚卸しの計画が見えない。具体的にどのように取り組んだのか、また今後の計画は。
			2、鳥坂フルインター化について	平成28年5月、横山前三豊市長の下、三豊鳥坂インターチェンジ・フルインター化促進会が発足されている。その後、幾度か会議が開かれて、計画を練ったが予算・場所等の理由により、余儀なく中断となっている。しかし、昨年、地元企業・有志の要望もあり、改めて国・県・ネクスコに、フルインター化実現のための働きかけができないか。
			3、観光について	今現在、日本では空前の観光ブームとなっている。そんな中、持続可能性の高い好循環を作ることが本市の観光の目指す姿とし、今年3月「観光基本計画」を作成予定としているが、その計画内容は。
			4、三豊市の火災について	三豊市の火災について ・三豊市内の火災の状況、被害は。 ・火災での防災無線等のお知らせが、現場付近の通達のため、現場の位置に困惑している。 ・被災者に対して、市からの見舞金、補助金等はないのか。

発言通告書の要旨(代表質問)

令和7年第1回定例会

質問日	質問順	会派/氏名	件名	要旨
3/6 (木)	3	立憲(CDP) 三木秀樹	1、市民が「本当に魅力的な自治体に成長？」と思える施策・政策を現市長の下で行ってきたのか 過去5年間も、今年も市の「実情にあった」施策なのか、中止・延期の判断も必要では	山下市政の大きな特徴は、国が提示する施策を、「重要視」し、市長自ら先頭に立ってマスメディアを利活用する「パフォーマンス行政」を得意としている点である。 6年前の「瀬戸内うどんカンパニー」、3年前の「三豊ベーシックインフラ事業」など、国の地域創生交付金等を活用した事業が、三豊市の体力強化になったのか。 バス運行人流データ実証実験、ドローンによる医療品配送実験、チャットGPTによる「市のゴミ出し案内」の実証実験、どれも大いにマスコミで報道されたが中止になった事業だ。三豊市の実情に合っていないと思われる2事業の中止、延期含めて、市長の見解を聞く。
			2、デジタルファーストの推進で、三豊市内に新たな「支援格差」を生み出している施策MitoPay(ミトペイ)の実態から改善を求める	市内の経済循環の活性化で令和3年8月までの「プレミアム付き商品券」は誰もが利用できる「ペーパー(紙)」と「PayPay(電子)」の二種類あった。それ以後三豊市の「田舎市」で、今後の自治体運営はデジタルファーストで取り組む、その一環としてプレミアムポイント還元のカッシュレス化と称して、MitoPay(地域通貨)を大胆に行ってきた。その財源は「国の地域創生臨時交付金」であり、使用目的は「市民生活応援資金」とか「高物価応援資金」であるにも関わらず、ミトペイを利活用している市内全世帯の13%～15%に、そのプレミアムポイント還元が集中している。残りの85%に還元のない(支援金が届かない)方式で、国の援助施策を差別と格差、前提で行うのか。
			3、施政方針の最後に、戦後直後に書かれ、1994年講談社文庫で広がった吉田満氏が一日で書いたと言われる「戦艦大和の最期」の「言葉」は、何が言いたいのか	私の、40歳ごろ、テレビで「24時間闘えますか」という猛烈社員の働きCMが流れた。バブルがはじける前だったと思うが、この吉田満氏の作「戦艦大和の最期」、この死期の言葉を、聞いたこともあった。市長の答弁を聞いて、質疑する。
	4	公明党 込山文吉	1、令和7年度施政方針	(1)夜間学級について 夜間学級の更なる周知や受け入れ態勢の充実が必要ではないかと考えるが、夜間学級の拡充や支援策の強化についての考えを聞く。 (2)保育・子育て支援について 家庭センター「なないろ」を設置し、妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援を提供している。 今後さらに取り組みを充実させるとのことであるが、具体的にどのような施策を検討されているのかを聞く。 また、妊婦等包括相談支援事業の具体的な支援内容、経済的支援の具体策について聞く。 (3)「観光、移住、定住やコミュニティ組織」について 戦略的な情報発信や、地域と連携した誘客促進事業を展開するとのことだが、具体的な取組内容について聞く。 移住コンテンツのポータルサイトの集約や移住コンシェルジュの設置、移住マッチングサイトの活用などが予定されている。この施策を通じて、どのように移住希望者を増やし、定住につなげていくのか、具体的な戦略について聞く。 (4)教育について 国際バカロレア教育の導入を進め、詫間中学校・詫間小学校をモデル校として候補申請を進めるとのことであるが、具体的な計画を聞く。 「放課後改革」として、吹奏楽部・柔道部、ソフトテニス部の実証を継続し、野球部のクラブチーム化も進めるとのことだが、具体的な支援策や進捗について聞く。 中学校の屋内運動場への空調設備導入や「宝山湖OKURAボールパーク」の施設改善が予定されている。 教育・スポーツ環境の向上と、地域活性化への影響について見解を聞く。

発言通告書の要旨(代表質問)

令和7年第1回定例会

質問日	質問順	会派/氏名	件名	要旨
3/7 (金)	5	桜の木 湯口 新	1、防災について	自主防災組織結成の促進と育成が喫緊の課題とのこと。育成についてはどのように考えているか。
			2、障がい者支援について	「障がいのある方の「親なき後」を見据えた地域生活支援拠点の整備による居住支援等の機能を備えたサービス提供体制の構築と基幹相談支援センターの設置」は公営か民営か。
			3、高瀬駅について	市長のイメージするパブリックスペースとは。
			4、交通政策について	自動運転の将来図は。モデル地はあるのか。ドライバー不足等による移動困難の解決にライドシェアの導入の検討は。
			5、有機栽培について	「生産したものを様々な形で消費者に届ける」とはどのようなものを想定しているのか。
			6、高齢者の活躍について	「シルバーパワーが本市のエンジンとして活躍できる環境づくり」とのこと。青パトや見守り隊も地域に必要なだと考えるが拡充策は。
			7、タラ財団の研究結果について	タラオセアンジャパンの調査結果で「衝撃的なもの」とはどのようなものか。
			8、放課後改革について	みとよマネー部やメタバース部は持続可能か。映画に関する部活動も作っては。
			9、子育て支援拠点の整備	子育て支援拠点の整備はどうするのか。
			10、観光について	なぜ今グリーン・デスティネーションズか。丸亀市との連携は。大阪・関西万博とのつながりは。
			11、事業の棚卸しについて	事業の棚卸し。市民の皆様にも十分にご理解いただきとのことだが、どうやって理解してもらうのか。
	6	七宝会 為広員史	1、自主防災組織結成及び非常用物資の備蓄について	自治会の防災組織の結成数とその割合 自治会の非常用物資の備蓄の有無について
			2、消防団の再編計画と現状について	消防団屯所の整備の現状と団員確保について
			3、河川の現状について	河川の現状についてどこまで調査掌握されているのかについて
			4、給食費の無償化について	国会でも議論されているが当市ではどのような考えか。
			5、通学路の整備について	本年度の整備方針について
			6、事務事業の棚卸しについて	令和6年から棚卸しは始まっているとあるが何なのか。
			7、街路灯・防犯灯について	老朽化や水銀灯について
			8、合併特例債について	令和7年・8年は特例債関連の事業は増えるが普通事業との関連は。
			9、令和7年度以後の棚卸しについて	職員や組織についてはどのように変わるのか。